

第2学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 「言葉」にこだわって、学級のおよさを表現しよう
中核教材「言葉の力」(光村図書2年)

10の視点①

単元全体の言語活動が想像できるような単元名を設定することで、見通しを持たせることができるとともに、みんなで考えてみたいという意識を持たせることにもつながっています。

2 単元について

私たちは言葉を使い、自分の思いを伝えたり物事を考えたり気持ちを整理したりしている。あまりにも身近なものであるがゆえ、日々の生活の中で立ち止まり、「言葉とはなんだろう」と考えることはほとんどない。しかし、言葉に励まされたり、嬉しくなったり、心を大きく動かされたりすることがよくある。そして、その言葉はほとんどの場合、特別難しく、素晴らしい言葉などではなく、生活の中でよく使う言葉である。そんな何気ない言葉に、なぜ心を動かされるのか。本教材には、その「なぜ」について、エピソードも交え分かりやすく筆者の考えが述べられている。そのため、当たり前に使っている言葉について改めて考えさせられる内容となっている。また、内容のおもしろさもさることながら、言葉の本質という抽象的な事柄を、わかりやすいエピソードを用いて説明している。説得力のある論理展開の工夫や、主張とエピソードとの関係など理解させるために、効果的であると考える。

生徒の実態(略)

指導にあたっては、まず筆者の言葉に対する考え方を正確に捉えさせたい。そのためには、エピソードに書かれている内容と筆者の主張がどう結びつくのかということ、エピソードが主張をどう支えているのかということ、明確にする必要がある。主張とエピソードの関係に注目し、なぜ説得力があり、わかりやすい文章になっているのかを考えさせたい。また、エピソードは、意外性があり印象的なだけでなく、その表現や描写も工夫されており、非常にイメージしやすい内容となっている。以上のことをおさえ、本時では既習の内容を生かし、一語一語にこだわりを持ち、相手に伝わる紹介文を書くことをめざしたい。

3 単元目標

- 自分や周囲の人の言葉の使い方を見つめ直し、自分の言語生活を振り返っている。

【国語への関心・意欲・態度】

- エピソードと主張との関係に着目し、内容の理解に役立てることができる。 【読むこと】
- 文章の構成や展開、表現・描写などの効果について考えることができる。 【読むこと】
- 主張が相手に伝わるよう、具体的なエピソードを用いたり、表現や描写など工夫したりして学級紹介文を書くことができる。 【書くこと】
- 抽象的な概念を表す語句や表現など理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元の評価規準

観点	国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・自分や周囲の人の言葉の使い方を見つめ直し、自分の言語生活を振り返っている。	・エピソードと主張との関係に着目し、随筆の内容を理解し、表現の効果について自分の考えを持っている。(イ) ・文章の構成や展開について、具体的な部分を取り上げて考えをまとめている。(ウ)	・主張が相手に効果的に伝わるように、具体的なエピソードを用いたり、表現や描写など工夫したりして学級紹介文を書いている。(ウ)	・抽象的な概念を表す語句や表現など理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	学習活動	評価規準	時間
1	(1) 説明文で学習したことを単元後半の書く活動で生かしていくことを理解し、単元全体の学習活動の見通しを持つ。	・筆者の言葉についての考え方や、自分や周囲の言葉のあり方を比べ、日々の言語生活を振り返っている。【関心・意欲・態度】 ・抽象的な概念を表す語句や表現など理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。【言語についての知識・理解・技能 イ(イ)】	1
	(2) 筆者の言葉についての考え方を読み取る。		
	(3) 志村さんのエピソードと、筆者の主張がどのような関係にあるかまとめる。	・具体的なエピソードと筆者の主張との関係に注目し、説得力がある文章になっている理由を考えている。【読む能力(イ)(ウ)】	1
2	具体的なエピソードを用い、学級の様子をより知ってもらえるような紹介文を作り、読み合う。	・主張を支えるために、エピソードの表現や描写を工夫し、紹介文を作っている。【書く能力(ウ)】 ・他の人の表現を読み味わうことで、自分の表現について振り返っている。【関心・意欲・態度】	3 本時2/3

「読むこと」と「書くこと」の指導事項を関連させて単元を構想することで、育成をめざす資質・能力を効果的に身につけさせることができます。

6 本時目標

- 主張とエピソードの関係を意識しながら、表現や描写などを工夫し学級紹介文を書くことができる。

【書くこと】

【改善】

具体例（エピソード）と主張の「関係」を考えながら書くことが、自分の意見をより効果的に伝えるための工夫となるということを明確に提示しています。

7 本時の学習過程（第4時／全5時間）

学習活動	○主な発問・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価【観点】(方法) ※手立て	時間
1 前時の振り返りと本時の学習課題を確認する。	○（黒板に掲示してある2つの例文を見て）元の例文と、直した例文を比べてみよう。直したものにはどんな工夫がされているだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のアドバイスや友達の書いた紹介文を参考に、自分の書いたものを練り直していくことを伝える。 ・2つの例文を比較し、工夫に気付くことで、本時は主張とエピソードのつながりや描写の工夫や意外性のあるエピソードという点に気をつけ練り直すことを意識づける。 	5分
<p>【改善】 例文を比較するという具体的な活動を通して、本時の学習のポイントを生徒が実感を持って理解できるようにしています。</p>			
<p>より伝わる学級紹介になるよう、練り直そう。</p>			
2 書いた紹介文を読み合う。	<p>○紹介文を読み合い、友達の紹介文のよい部分、真似したい部分を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面が目浮かぶようだ。 ・印象的なエピソードだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エピソードが主張を支えるものになっているかということに着目し読むよう伝える。 ・よい部分だけでなく、こうすればもっとよくなると思った点があれば、そのアドバイスも書かせる。 ・どうすればよりよい紹介文になるのか、グループごとで話をさせる。 	15分
<p>10の視点⑥ 全体と部分の関係に着目して話し合わせるなど、ねらいを明確にして推敲させることが重要です。</p>			
3 アドバイスや友達の紹介文を参考に、書いたものを見直す。	<p>○友達のアドバイスや友達の書いた紹介文を参考に、より伝わるものになるよう練り直そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のエピソードのほうが、自分の主張と合っているかも。 ・あの表現がよかったから真似したいな。 ・体験を、もっと具体的に、目浮かぶように書かないとなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に書いてもらった付箋を読み、自分の伝えたいことや工夫が相手に伝わっているか、確認させる。 ○描写や表現を工夫し、主張に合った具体的なエピソードが書けているか。 <p>【書く能力(ウ)】 (観察、ワークシート)</p> <p>※友達からだけでなく、教員からもより具体的なアドバイスを伝える。</p>	25分
4 よりよい紹介文を作るために工夫できたか振り返り、次時の目標を持つ。	<p>○完成した紹介文を、何人か発表してください。</p> <p>○次の時間は、完成した紹介文を読み合い、学級のよさをみんなで共感しましょう。</p>		5分